

## ○ 協働事業の概要

記入年月日 平成 30 年 3 月 31 日

事業名	災害時にも役立つ、自然エネルギーを活用したエコなライフスタイルの実践啓発事業
団体名	NPO 法人こだいらソーラー
担当課名	環境部 環境政策課
事業期間	平成 29 年 5 月 24 日～平成 30 年 3 月 31 日

いきいき協働事業の自己評価について、ご記入ください。

① 地域の課題が解決されましたか。(計画時に設定した課題がどの程度解決されましたか。対象者がどう変わりましたか。)

まちウォッチング時に自治会防災担当者4名の参加があり、防災訓練での展示提案やまちウォッチング自体の好評価があり、防災担当者の再エネへの理解が進み、日頃の再エネ活用への意識付けが進んだと思う。

太陽光ペランダ発電工作セミナーについては、定員をはるかに超える申込があり、女性による申込も約 40%を超えた。参加世代も各世代に分かれ、再エネ発電(電気)へのハードルが下がっている可能性がある。

2018 年 1 月のギャラリー展示では、通りすがりのファミリー層が立ち寄ってくれて、アンケートにも答えて貰った。

ギャラリー展示では、通りすがりの方にもアンケートに答えてもらえ、各世代からの貴重なアンケートができたと思う。

また、報告リーフレット(1,000 部)を作成し、継続的に市民への啓発活動を進める予定である。

② 自らの団体の長所が、発揮出来ましたか。(市民の共感を引き出し、行政や企業では出来ない良質な成果が得られましたか。市・団体が単独で実施するより効果的・効率的に事業展開できましたか。)

まちウォッチングでは、日頃の BDF(バイオディーゼルフuel)繋がりの方の協力やこだいらソーラーの会員の協力で、防災倉庫や災害用井戸を紹介することができた。市民活動の日頃のネットワークのお陰で、催しの講師や参加の働き掛けがスムーズにできた。

③ 協働の姿勢が図られましたか。(互いの組織としての理念や使命、組織運営の考え方など相互理解が図られたか。対等関係を維持するために適切な協議や意見交換の機会を設けましたか。相手方と十分な情報の共有が図られましたか。)

昨年に引き続き、今回で 4 年連続でもあり、相互の理解、連絡、連携等については、お互いの窓口が変わらず問題なく事業を進めることができた。年度初めの協議を始め、場所の確保、市報掲載、ポスター・チラシの手配等におけるそれぞれの役割分担がスムーズになされた。その過程で、情報の共有や適切な協議が図れた。

④ 改善提案がありますか。

今年度も、展示や講演だけでなく、参加者に自ら体験していただく、まちウォッチングや工作教室、映像の視聴を取り入れ、参加者の記憶に残るような工夫をした。災害という緊急時に最低限の電気(エネルギー)を確保する重要性和再生可能エネルギーを取り出す手段(グッズ)の紹介を通じて、日常としてのエコなライフスタイルの必要性を実感する場を提供した。但し、物理的な限界もあり、参加者は限られた。今後も、継続的に日常生活に取り入れてもらえるよう、今回の事業内容についてリーフレットを作成し広く配布し少しでも多くの市民に情報を提供したい。

市民生活の課題解決のため、横断的な市民団体の連携を行い様々な切り口から働きかける仕組み作りを検討してはどうか。エコについて、省エネ等を前面に出さなくても、別の側面からアプローチした結果、節電に繋がることもあり、参加者の増加につながる可能性があると思う。例えば、ごみを減らすことは、遑って無駄な買い物をしないことに繋がり、その分エネルギー・資源の消費は節約できる(環境団体とごみ関連団体との連携)。情報の伝え方にしても、学校・自治会・サークル等の組織との連携を図るとか。